

ECEQ[®] コーディネーター
テキストブック & マニュアル

ECEQ[®] Coordinator Textbook & Manual



ECEQ® コーディネーター養成講座の教材である ECEQ® コーディネーターテキスト & マニュアル、および映像教材は、文部科学省の「幼児教育施設の機能を生かした幼児の学び強化事業」の委託費による委託業務として、(一財) 全日本私立幼稚園幼児教育研究機構が実施した令和4年度幼児教育施設における指導の在り方等に関する調査研究の一環で制作したものです。したがって、講座映像の録音、写真撮影、動画撮影、第三者への URL の共有や貸与、SNS を含む他の媒体への転載は固くお断りします。また講座テキストデータの複製、転載、引用等には文部科学省の承諾が必要です。

ECEQ® コーディネーター テキストブック&マニュアル

ECEQ®Coordinator TextBook & Manual



第1章 ECEQ®とは

- 1-1 ECEQ®とは
- 1-2 ECEQ®の特長
- 1-3 ECEQ®のロゴマーク
- 1-4 ECEQ®の目的
- 1-5 ECEQ®のポリシー
- 1-6 5STEP プロセス
- 1-7 学校評価における ECEQ®

第2章 ECEQ® コーディネーターとは

- 2-1 ECEQ® コーディネーターとは
- 2-2 ECEQ® コーディネーターの使命
- 2-3 ECEQ® コーディネーターの役割
- 2-4 ECEQ® コーディネーターに求められる知識とスキル
- 2-5 ECEQ® コーディネーターに求められるファシリテーションについての理解
- 2-6 メイン ECEQ® コーディネーターとサブ ECEQ® コーディネーター

第3章 ECEQ®の実施

- 3-1 ECEQ® 申請前相談
- 3-2 ECEQ® 申請受付
- 3-3 STEP1 事前訪問
- 3-4 STEP2 事前研修とは
- 3-5 STEP3「問い」づくりと公開保育の準備
- 3-6 STEP4 公開保育の準備
- 3-7 STEP4 公開保育
- 3-8 STEP5 事後研修とは

第4章 実施園記録と ECEQ® コーディネーター報告書

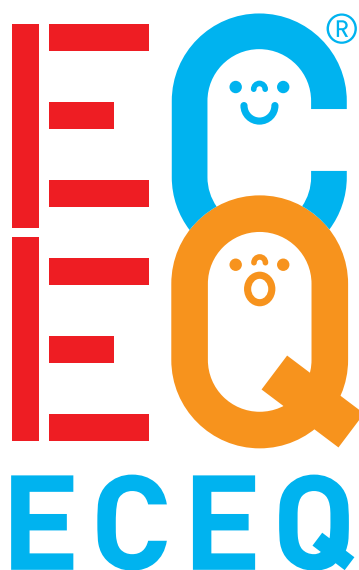
- 4-1 実施園記録と ECEQ® コーディネーター報告書
- 4-2 実施園記録の書き方
- 4-3 ECEQ® コーディネーター報告書の書き方
- 4-4 ECEQ® の完了

ECEQ[®] コーディネーター テキストブック&マニュアル

ECEQ[®] Coordinator TextBook & Manual

第1章 ECEQ[®] とは

1-1	ECEQ [®] とは	2
1-2	ECEQ [®] の特長	3
1-3	ECEQ [®] のロゴマーク	4
1-4	ECEQ [®] の目的	5
1-5	ECEQ [®] のポリシー	6
1-6	5STEP プロセス	7
1-7	学校評価における ECEQ [®]	10



Early Childhood
Education
Quality System.

全日本私立幼稚園幼児教育研究機構

第1章 ECEQ® とは

1-1 イーセック ECEQ® とは

全日本私立幼稚園幼児教育研究機構が開発した 「公開保育を活用した幼児教育の質向上システム」

イーセック ECEQ® (Early Childhood Education Quality System.) は、幼稚園等が公開保育を実施し、外部の視点を導入することによって、自園の教育実践の質向上につなげていく学校評価実施支援システムとして誕生しました。システムの核は公開保育です。ふだんどおりの保育実践を他園の保育者等が見学し、ECEQ® 実施園の保育者と意見交換することによって、自分たちだけでは分からなかった自園の良さや課題を見つけることができます。また、その過程において、園内のコミュニケーションが活性化し、同僚性を高める手法も学ぶことができるのです。

ECEQ® は、この一連の質向上システムを全日本私立幼稚園幼児教育研究機構（以下、当機構）が認定した ECEQ® コーディネーターが初めから終わりまでサポートするため、公開保育をしたことがない園でも安心して実施できます。



▲ ECEQ®STEP4 公開保育の様子

1-2 ^{イーセック}ECEQ[®]の特長

^{ステップ}5STEP プロセスと ^{イーセック}ECEQ[®] コーディネーター

ECEQ[®] は、次の2つの特長によって、保育者が主体的に子どもをまんやかにした質の高い幼児教育をつくり上げていくための園の風土を醸成していきます。

特長1 5STEP プロセス

公開保育当日だけではなく、STEP 1からSTEP 5 までの一連の取組みを行いながら、園全体で自園の保育実践の評価・改善を進めます。

特長2 ECEQ[®] コーディネーター

STEP 1からSTEP 5までの一連の取組みに、当機構認定の ECEQ[®] コーディネーターが関わり、支援を行います。



1-3 イーセック ECEQ[®] のロゴマーク

子どもの成長を願って

ECEQ[®] のロゴマークは、ECEQ[®] の「E」を縦積みにして身長計の目盛りに見立て、「C」は幼児、「Q」は乳児を表し、子どもが成長していく姿を表現しています。また、目盛りのイメージは ECEQ[®] が「評価スケール」の意味をもつことも示唆しています。C の右肩にある[®] は登録商標の印です。

文字のイメージ E…身長計の目盛り、「評価スケール」

C…幼児

Q…乳児

E + C + Q…子どもの成長

[®]…登録商標の印

色のイメージ 赤色…命の源やエネルギー、たくましさ

水色…知性、思いやり、安定、平和

オレンジ色…情緒、親しみ、コミュニケーション

図表 1-1 : ECEQ[®] のロゴマーク



1-4 イーセック ECEQ® の目的

幼児教育の質向上のために

幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであり、小学校以上の教科学習とは異なり、環境を通じた教育が行われることは幼稚園教育要領等に示されているとおりです。人間の基礎教育である幼児教育に投資することが重要なことも、世界的な認識となり、幼児教育は OECD（経済協力開発機構）も注目している分野です。同時に幼児教育の質が問われることとなり、各国では多様な評価スケールが開発される等、質向上に向けて様々な取組みが行われています。

公的な教育を担う私立幼稚園等としては、独自性を失わずかつ独善に陥らないために学校評価に積極的に取り組む必要がありますが、現状としては学校評価の中でも最も重要な自己評価がうまく機能せず、園としての課題が明確になっていない園も多く見受けられます。

そのため、当機構は平成 20 年度より学校関係者評価を支援するための研究を続け、幼稚園等が公開保育を実施し、外部の視点を導入することによって、自園の教育実践の質向上につなげていく学校評価実施支援システム「公開保育を活用した幼児教育の質向上システム」の開発を進めてきました。平成 29 年度からは「公開保育を活用した幼児教育の質向上システム」Early Childhood Education Quality System. の頭文字をとって ECEQ®（イーセック）と名付け、この取組みの更なる普及を目指しています。

ECEQ® に取り組むことで公開保育を実施し、外部からの参加者と共に保育を語り合うことによって、これまで自分たちには見えなかった新たな視点が参加者からもたらされることにより、環境の再構成やカリキュラムの見直し等へつながるのです。園内に幼児教育の質を高めるための新しい風を吹き込ませることができる、これが ECEQ® です。

目的1 公開保育を実施し外部の視点を導入することによって、より多面的で多角的な評価・改善を行う

目的2 園として学校評価を持続的に実施し、幼児教育の質を向上し続けていくための組織風土をつくり上げていく

1-5 イーセック ECEQ[®]のポリシー

イーセック ECEQ[®]が約束する3つのポリシー

ECEQ[®]は、次の3つのポリシーを、実施園に約束します。

ポリシー1 実施園がまんなか

…ECEQ[®]を実施した園が「やってよかった」と思えるために

ECEQ[®]は、実施園のナビゲーターとなる ECEQ[®] コーディネーターが進行を支援することが特長です。ECEQ[®] コーディネーターは実施園に寄り添い、ワークや対話を通して実施園が自園の良さや課題を見つけることができるよう手伝います。実施園に必ず実りがあるように、ECEQ[®] 全体をコーディネートするのが ECEQ[®] コーディネーターの役割です。

ポリシー2 5STEP プロセス

…5STEP を通して園との対話を丁寧に

ECEQ[®] は次の5段階で進めます。

- STEP 1 理事長・園長・副園長・教頭・主任（以下、トップリーダー）から
園運営についての聴き取り
- STEP 2 実施園の保育者等から園の現状のヒアリングと、現在位置を知るワークの
実施
- STEP 3 公開保育で参加者に見てもらいたい視点をつくる「問い」づくりと、
STEP 4 の準備
- STEP 4 保育の公開と参加者との語り合い
- STEP 5 STEP 4までの振り返り

これらすべての段階を、実施園と ECEQ[®] コーディネーターとの協働作業で進めます

ポリシー3 体験からの気づき・学び 学びあい、育ちあい

…「指導」「助言」ではなく「ともに学ぶ」関係性

助言者に教えを乞う教授型ではなく、実施園と ECEQ[®] コーディネーターがともに学び合い、育ち合う「参加者主体」の学びを実施します。STEP 4においては、現場の保育者同士が意見を交わし合うことで、実施園はもとより、見学した参加者自身にも気づきや学びが生まれます。

1-6 ^{ステップ}5STEP プロセス

幼児教育の質向上を支援する ^{イーセック} ^{ステップ} ECEQ[®] 5STEP プロセス

5STEP プロセスは ECEQ[®] の特長の一つです。実施園は STEP1 から STEP5 までを、ECEQ[®] コーディネーターと共に丁寧に進めることで、対話と内省を深めていきます。

STEP 1 事前訪問

ECEQ[®] コーディネーターが複数人で実施園を訪問します。トップリーダーに ECEQ[®] の概要を説明し、ECEQ[®] を正しく理解してもらうことから始めます。次に、実施園の建学の精神や園の歴史、教育理念や教育目標、これまでの学校評価への取組み等、園運営に対しトップリーダーが抱く現状と課題、ならびに ECEQ[®] に期待すること等の聴き取りを行います。

トップリーダーとは

トップリーダーとは、園全体のマネジメントに責任を持つ人のことです。具体的には、理事長、園長、副園長、教頭、主任といった肩書きだけでなく、保育者をマネジメントする立ち位置で経営的な視点をもって園の方向性を定めたり人事に携わったりする人を指します。園が幼児教育の質向上を目指すとき、ECEQ[®] コーディネーターが保育者等とトップリーダーとの思考や見方、目標等がどの程度同じか、あるいは異なる点があるかを知っておくことは、実施園に関わる際にはとても重要です。

STEP 2 事前研修

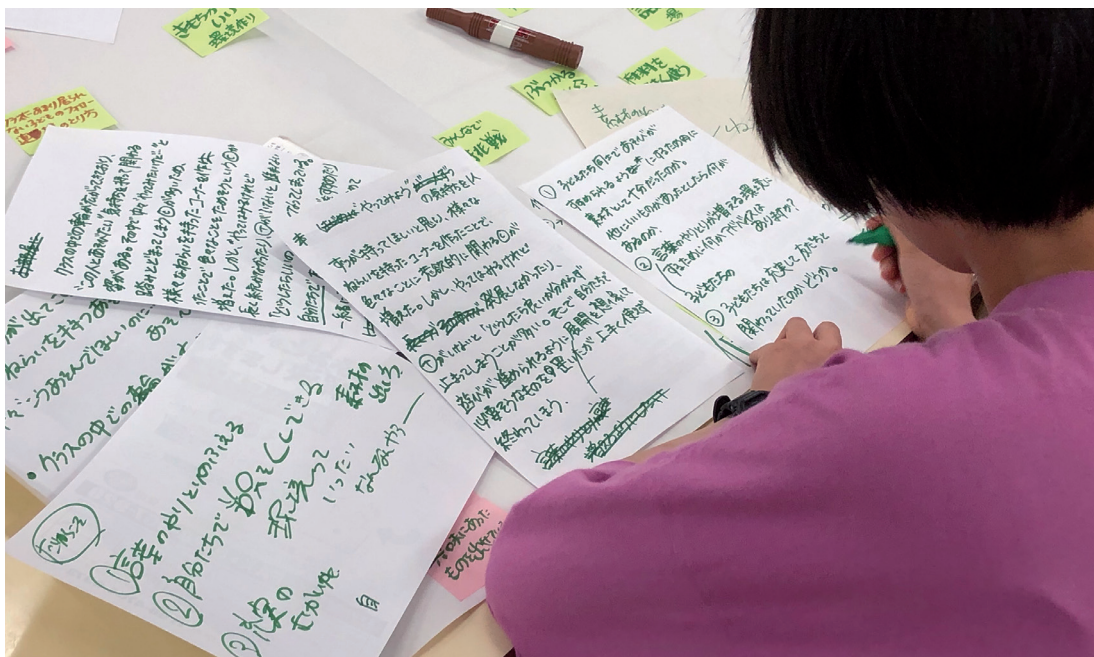
ECEQ[®] コーディネーターが、実施園の保育者等に対してECEQ[®]を説明し、ECEQ[®] コーディネーターの進行によるワークを通して、保育者自身が考える園の現状と課題を明らかにしていきます。自園の良さと課題を自覚することが、質向上への第一歩です。



▲ワークの様子

STEP 3 公開保育に向けての準備

事前研修で明らかになった自園の良さや課題を基に、公開保育当日に参加者と共有したい視点を「問い」として示すことができるように「問い」づくりをし、公開保育参加者を迎える準備をします。



▲「問い」を考える実施園の保育者

STEP 4 公開保育

参加者に対してオリエンテーションを行い、ECEQ[®]の概要説明や時程、諸連絡等を行います。保育見学後は分科会を行い、参加者と「問い」を通じて対話を重ねます。各分科会の内容を全体会にて全員で共有することにより、参加者も共に学びを深めていきます。



▲分科会で語り合うファシリテーター、実施園の保育者、参加者

STEP 5 事後研修

公開保育時に参加者から得た意見や感想等を参考に、振り返りの研修を行います。外部からの視点を基に改めて自園の良さと課題を再確認し、良さとしてさらに伸ばしていきたい点や、取り組むべき課題を明確にして、実施園の保育の改善につなげます。



▲ECEQ[®]コーディネーターと公開保育を振り返る実施園の保育者

1-7 学校評価における ECEQ[®]

学校評価実施支援システムとして 開発された ECEQ[®]

ECEQ[®] は、「評価スケール」として活用できます。

(1) 自己評価及び学校関係者評価の実効性を高める ECEQ[®]

学校評価は、組織的・継続的に教育の改善を図り、保護者や地域社会からの理解と参画を得ながら、園づくりを進めることが目的です。ECEQ[®] の5STEP には、学校評価を促す手法が組み込まれています。

(2) 自己評価の観点

STEP 1・2 自園の良さと課題を明らかにし、園全体で共有

STEP 3 課題を意識しながら教育実践を行い、その過程で気づいた疑問や参加者と共に語り合いたい内容を「問い」として表現

STEP 4 「問い」を通じて公開保育参加者との語り合い

STEP 5 公開保育の際に参加者から得た意見や感想を基に、自園の良さや課題を再確認し、課題解決へ向けて環境の再構成やカリキュラムの見直し等を実施して、自己評価につなげる

(3) 学校関係者評価の観点

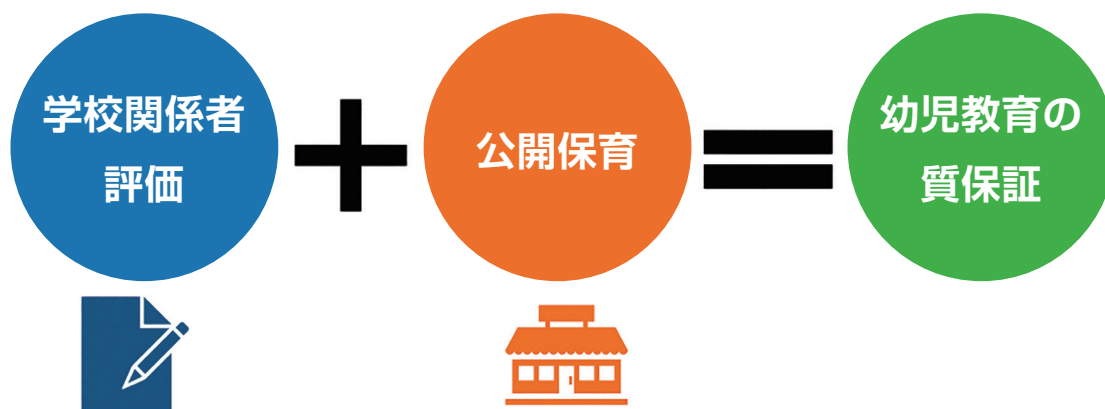
STEP 4公開保育では、参加者として外部の視点が入り、「問い」を通じて参加者と課題を共有しながら多様な意見をもらうことができます。

公開保育の参加者は、他の幼稚園等の保育者等が中心となりますが、その他小学校の教員や地域の幼児関連施設の従事者、行政担当者、学校関係者評価委員（施設関係者評価委員）、保護者の代表者、地域の代表者等、幅広く考えることができます。

特に学校関係者評価委員に自己評価の結果を適切に評価してもらうためには、園のことをよく理解してもらう必要がありますので、学校関係者評価委員のECEQ[®]公開保育への参加はとても意味のあることです。

図表 1-2：高まる学校関係者評価の重要性

2019年 幼児教育の無償化が開始
学校関係者評価の重要性が高まる



まとめ

「やってよかった ECEQ®！」～対話と内省を深めながら～

☐ ECEQ® とは？

全日本私立幼稚園幼児教育研究機構が開発した
「公開保育を活用した幼児教育の質向上システム」

☐ ECEQ® の特長とは？

5STEP と ECEQ® コーディネーター

☐ ECEQ® の目的とは？

幼児教育の質向上とそのための組織風土の醸成

☐ ECEQ® の3つのポリシーとは？

- (1) 実施園がまんなか
- (2) 5STEP プロセス
- (3) 体験からの気づき・学び 学びあい、育ちあい

☐ ECEQ® =学校評価？

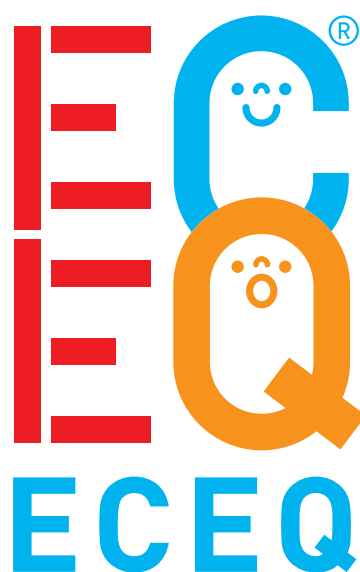
学校評価を支援するシステムとして開発された ECEQ® は、
自己評価及び学校関係者評価の実効性を高めるシステム

ECEQ[®] コーディネーター テキストブック&マニュアル

ECEQ[®] Coordinator TextBook & Manual

第2章 ECEQ[®] コーディネーターとは

2-1	ECEQ [®] コーディネーターとは	14
2-2	ECEQ [®] コーディネーターの使命	15
2-3	ECEQ [®] コーディネーターの役割	16
2-4	ECEQ [®] コーディネーターに 求められる知識とスキル	18
2-5	ECEQ [®] コーディネーターに 求められるファシリテーションに ついての理解	19
2-6	メイン ECEQ [®] コーディネーター とサブ ECEQ [®] コーディネーター	24



Early Childhood
Education
Quality System.

全日本私立幼稚園幼児教育研究機構

第2章 ECEQ® コーディネーターとは

2-1 ^{イーセック}ECEQ® コーディネーターとは

^{イーセック}ECEQ® の旅をナビゲートしてくれる ^{イーセック}ECEQ® コーディネーター資格をもった頼もしい「仲間」

実施園が「やってよかった」と思えるように、ECEQ® 全体をナビゲートする専門スタッフが ECEQ® コーディネーターです。ECEQ® コーディネーターは、全日本私立幼稚園幼児教育研究機構の養成講座を修了して認定を受けた、幼児教育の理論と実践を理解しファシリテーションのスキルを持った専門家です。

ECEQ® 全体をコーディネートしながら、STEP 毎に、実施園の保育者たちの話し合いを深めたり、課題を整理する手伝いをしたり、STEP 4では実施園と参加者との対話を促したりします。

評価や指導をする立場では決してなく、ECEQ® が実りあるものになるように、実施園の側に立つ頼れる「仲間」が ECEQ® コーディネーターです。



2-2 イーセック ECEQ® コーディネーターの使命

すべては実施園の「やってよかった」のために

後述する ECEQ® コーディネーターの役割と支援は、実施園の気持ちが「やってよかった ECEQ®」となることを目的としています。実施園の保育者が、同僚との関係性に支えられる中で意欲的に園の課題を解決し、幼児教育の質向上を目指す園の風土の醸成に寄与することが、ECEQ® コーディネーターの使命です。ECEQ® コーディネーターは、指導者・助言者・評価者ではなく、質向上のためのナビゲーターとして実施園の ECEQ® を支援していきます。

ECEQ® コーディネーターの支援内容

- ・実施園が、良さや課題を自ら見つけ出す支援
- ・主体的な話し合いの場づくりの支援
- ・実りある公開保育となるような「問い」づくりの支援
- ・ECEQ® 終了後も、会議や園内研修が主体的にできるようになる支援



▲ STEP2 で実施園の現在位置を共有する参加型研修を行うメイン ECEQ® コーディネーター

2-3 イーセック ECEQ[®] コーディネーターの役割

何をコーディネートするのか

ECEQ[®] コーディネーターは、実施園が安心かつ主体的に ECEQ[®] に取り組めるよう、ナビゲーターとして ECEQ[®] 全体をコーディネートします。その役割は、大きく分けると2つあります。

1つ目は ECEQ[®] 実施に際しての都道府県私立幼稚園団体や関係機関等との連絡調整、2つ目は ECEQ[®] の各 STEP のスムーズかつ有意義な進行のための実施園支援です。

役割1 ECEQ[®] 実施に際しての都道府県私立幼稚園団体や関係機関等との連絡調整

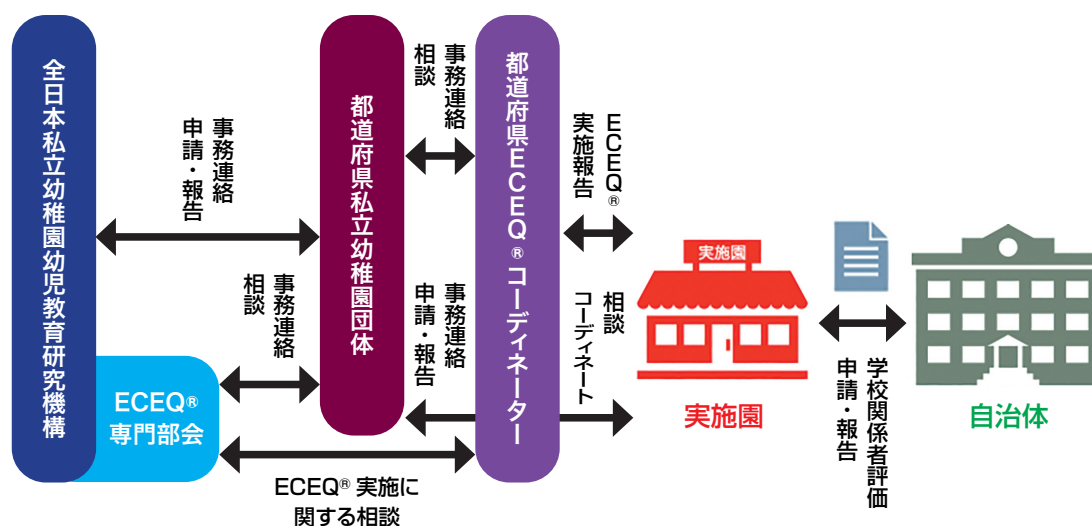
役割2 各 STEP のスムーズかつ有意義な進行のための実施園支援

(1) 関係機関等との連携

ECEQ[®] の実務は、都道府県私立幼稚園団体が窓口となります。団体は実施園からの ECEQ[®] の実施申請の受付から、STEP 4の実施手続き等の事務的作業を担います。ECEQ[®] コーディネーターが ECEQ[®] の全 STEP を主となってコーディネートする際には、都道府県私立幼稚園団体の窓口と連絡を取り、情報を共有しておくことが重要です。

また、STEP 4公開保育を学校関係者評価として行うために、実施園が市町村の保育関係部署や教育委員会と連携したり地域や保護者の理解を促したりするための支援を行うこともあります。

図表 2-1：関係機関等との連携のイメージ



(2) 実施園支援

ECEQ[®]を初めて実施する園は、各都道府県私立幼稚園団体へ実施希望の連絡をすることから始めます。その際に ECEQ[®] の概要等、事前の相談があれば、実施園が所在する都道府県の ECEQ[®] コーディネーターに相談します。

実施園が意向を固め申請書を提出し実施が決まれば、ECEQ[®] の STEP がスタートします。担当する ECEQ[®] コーディネーターは、STEP 1から STEP 5、その後の実施園記録提出まで、実施園が安心して主体的に ECEQ[®] に取り組むことができるよう、親身になって支援します。その過程で ECEQ[®] コーディネーターとしての迷いや相談事があれば、気軽に地区の＊ECEQ[®] 専門部会員に連絡しましょう。ECEQ[®] 専門部会員は ECEQ[®] コーディネーター皆さんの頼りになる存在です。

＊ECEQ[®] 専門部会員…全日本私立幼稚園幼児教育研究機構は、令和3年度に ECEQ[®] の運営や調査・研究を担う ECEQ[®] 専門部会を立ち上げ、北海道から九州までの全国 11 地区に ECEQ[®] 専門部会員を配置しました。各都道府県私立幼稚園団体の ECEQ[®] の窓口となる担当者や ECEQ[®] コーディネーターが、ECEQ[®] についての質問や相談があれば、最初の連絡先となるのが ECEQ[®] 専門部会員です。そのため、ECEQ[®] コーディネーターが、全日本私立幼稚園幼児教育研究機構と直接連絡をとることはありません。

2-4 ^{イーセック}ECEQ[®] コーディネーターに求められる 知識とスキル

幼児教育 + ファシリテーション ^{イーセック} = ECEQ[®] コーディネーター

ECEQ[®]を通じて、保育の質向上を目指す実施園をナビゲートしていく ECEQ[®] コーディネーターには、大きく分けて2つの知識とスキルが求められます。

知識とスキル1…幼児教育についての理解

知識とスキル2…ファシリテーションについての理解

(1) 幼児教育についての理解の具体的内容

- ・幼稚園教育要領等
- ・教育課程、指導計画等への理解
- ・子ども理解
- ・研修、研究
- ・園マネジメント

(2) ファシリテーションについての理解の具体的内容

- ・話し合いを活性化させる役割とその有効性
- ・ワークおよび対話の手法
- ・課題の明確化や共有化の支援

2-5 ^{イーセック}ECEQ[®] コーディネーターに求められる ファシリテーションについての理解

ファシリテーションとは

(1) なぜファシリテーション？

ECEQ[®] コーディネーターは、ECEQ[®] の全STEPを実施園との対話を通して進めます。実施園に信頼され、良好な関係性を紡ぐためにECEQ[®] コーディネーターが身につけておかなければならない大切な対話のスキルがファシリテーションです。



ファシリテーターとは？

辞書などに書かれている「ファシリテート」の原意は「容易にする」「促進する」「円滑にする」「支援する」などです。しかし、それだけでは何を容易にし、何を促進するのかが不明瞭です。「ファシリテート」を端的に説明すると、「**目的のために関係をつなぐ対話（コミュニケーション）のスキル**」になるでしょう。問題解決や合意形成を目的とした場で人と人、人と課題、課題と課題をつなげる対話の場で生きるスキルを「ファシリテーション」といい、ECEQ[®]STEP4の分科会において、その役割を担う人のことを「**ファシリテーター**」と呼びます。ECEQ[®] コーディネーターの一つの側面といえます。

ファシリテーションとは、つまり、**問題解決や合意形成のために、当事者同士の対話を促進したりコミュニケーションを円滑にしたりして、当事者が自ら納得できる成果や答えを見出したり、当事者が気づきや成長を促進させるプロセスに働きかけるスキル**です。会議や参加型研修、体験学習などの学びの場、そして、さまざまな人間関係が織りなす場など、多様な価値観を持った人がコミュニケーションする機会において、ファシリテーターの重要性がますます高まっています。

(2) ファシリテーターのふるまい・構え

ECEQ[®] コーディネーターがファシリテーションをする上で大切にしたいことは、**a 実施園中心**、**b ともにある**、**c 非評価**、**d 非操作** という4つのふるまい・構えです。

a 実施園中心 ⇔ × 教授者中心

質向上のための課題発見や問題解決を行うのは、あくまでも実施園の保育者です。ECEQ[®] コーディネーターは、保育者たちが自分たちの中にある答えを見つけ出せるような手伝いに徹することが大切です。自身の保育観に根ざした知識やスキルを一方的に披露しアドバイスしたりするのではなく、気づきを促すような問いかけをすることがふさわしいふるまいです。実施園の保育者と主体的・対話的に、「いまここ」の体験から学ぶ構えが ECEQ[®] コーディネーターにも求められます。

- POINT**
- ・体験から学ぶ
 - ・主体的
 - ・対話的
 - ・参加型

b ともにある ⇔ × 対関係的

ECEQ[®] コーディネーターは、「教える者」ではなく「共に学ぶ存在」として、実施園との信頼関係を築くことが重要です。そのために大切な心がけは、実施園のことを「わかりたい」と思う気持ちです。ECEQ[®] コーディネーターがオープンマインド(ほどよい自己開示と寛容さ)に実施園と接し、共感し合える関係性を築けるようなふるまいを心がけることが大切です。

- POINT**
- ・信頼関係
 - ・わかりたいと思う気持ち
 - ・共感的な存在
 - ・オープンマインド



c 非評価 ⇔ × 評価的

「正しい／間違っている」「善い／悪い」という判断で物事を見ない構えが、実施園の保育者の心理的安全性につながります。実施園の成長を願いながら、善し悪しを評価せずに、あるがままを受け止めます。

特に保育内容（の質）やチームの状態等、実施園の本質的な部分を問い質したり詰問したりするようなことはあってはなりません。理解できなかったことを確認するために「なぜ」と尋ねる場合も、タイミングや言い方によっては相手に不快感を与えることにもなります。非評価であろうとする構えは、「先生」という立場の人には案外難しいふるまいなのかもしれません。

自分のふるまいを俯瞰的に観る眼を養うことも ECEQ[®] コーディネーターにとって大事なレッスンです。実施園のすべてをあるがままに受け入れ、自分自身の保育観は一旦脇に置き、常に実施園が主体的に保育の質向上を目指せるように支援しましょう。

「批判や評価をされず自園のことを尊重してもらっている」、そんな実感から実施園の心理的安全性を得られ、各 STEP での対話がスムーズに進むでしょう。

POINT

- ・あるがまま
- ・心理的安全性
- ・受容的

d 非操作 ⇔ × 操作的

ECEQ[®] コーディネーターは、実施園の保育者が自分たちの中にある「答え」を導き出していくプロセスを支援します。課題や問題に接したときに、ECEQ[®] コーディネーターが考える答えに実施園を誘導するように操作するのではなく、実施園が答えを探し出そうとすると、道に迷わないように現在位置を確認したり選択肢を可視化したりしながらナビゲートするのが役割です。

どんな答えを見つけ出すかは問題ではありません。見つけ出した答えに ECEQ[®] コーディネーターとして合意できなかったとしても、それを操作しようとするのではなく、実施園の保育者たちがどのように考えているのかを十分に話し合えるように関わります。たとえば、あなたが ECEQ[®] コーディネーターとして STEP3 で「問い」づくりに関わった際、実施園が立てた「問い」が幼稚園教育要領等からずれているように感じ共感できなかったとき、操作的に介入したくなるかもしれません。そんなときにも、「問い」を立てた理由をじっくりと共感的に聴くことを大切にしてください。そして、STEP4 で参加者から多様なフィードバックを得られることに期待する（オープンエンド）のです。

POINT

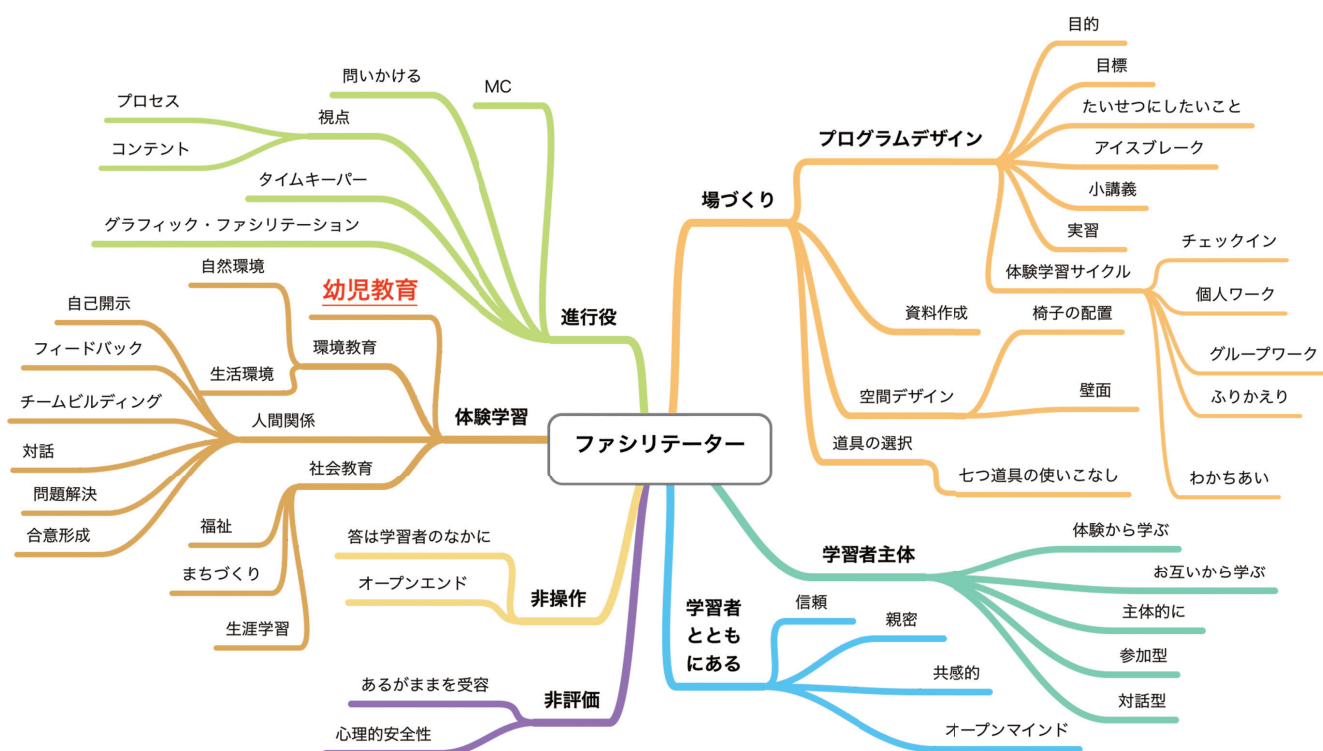
- ・答えは実施園のなかにある
- ・オープンエンド

ファシリテーターの役割

ファシリテーターの多岐にわたる役割を表した図が、下のファシリテーター・ワークマップです。このマップでは「体験学習」のカテゴリーに「幼児教育」を位置づけています。幼稚園教育要領等に示されているように「幼児が身近な環境に主体的に関わり、環境との関わり方や意味に気づき（中略）試行錯誤したり、考えたりするようになる幼児期の教育」は、まさに体験から学ぶ幼児による体験学習といえます。

保育者が子どもにファシリテーターに関わるのが大切であるのはもちろんですが、近年は保育者集団が「チーム」となって仕事をする重要性が指摘され、同僚性を育むためにファシリテーションスキルを学ぼうという声が高まっています。ECEQ[®] コーディネーターとしてファシリテーションスキルを学び身につけることは、ECEQ[®] コーディネーターの活動だけでなく自園で仕事をする上でも大いに役立つことでしょう。

図表 2-2：ファシリテーター・ワークマップ



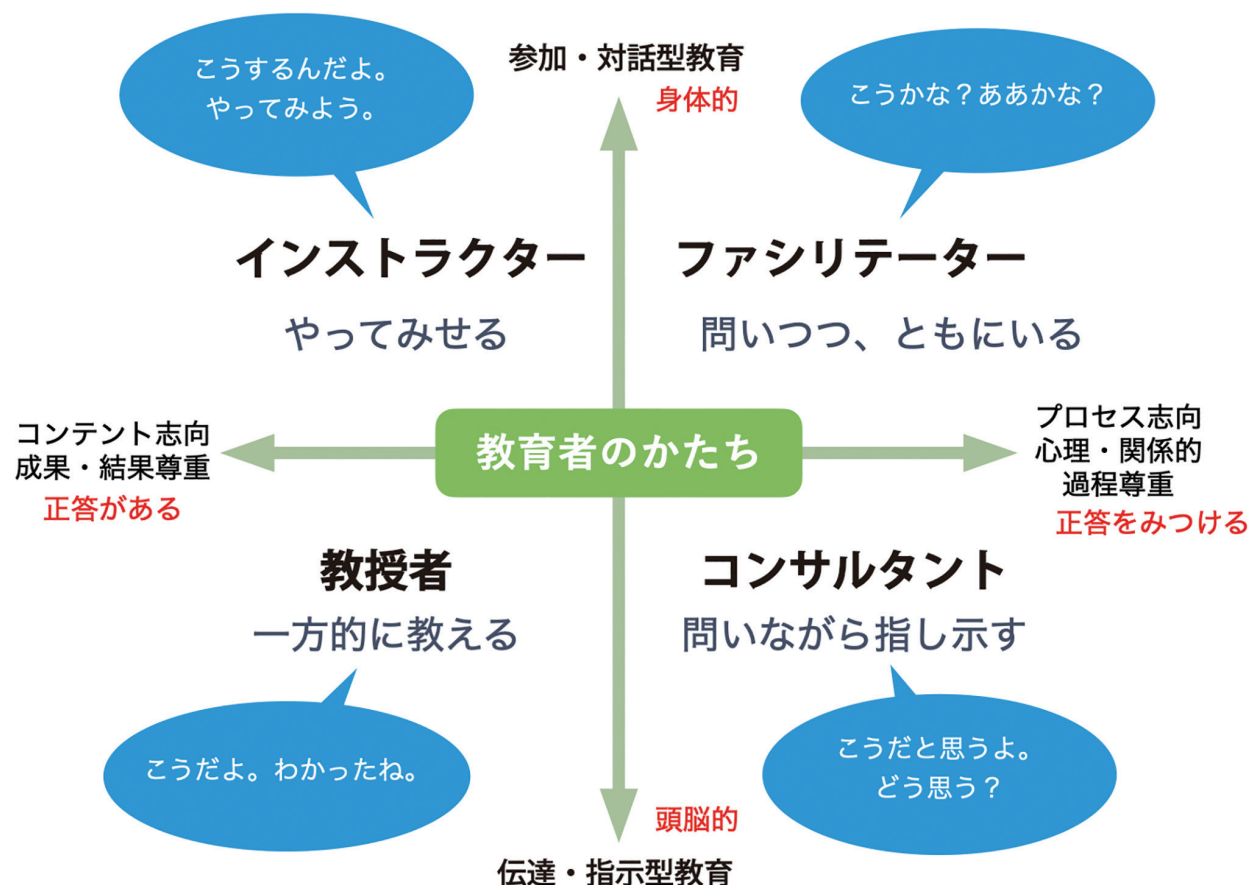
教授者ではなくファシリテーター

教育者の学習者への関わり方が「伝達・指示型」か「参加・対話型」か、教育の重点が「コンテンツ志向：成果・結果尊重」か「プロセス志向：心理・関係的过程尊重」か。教育者には、この2つの次元によって分けられる4つの類型があるといわれています。

ファシリテーターは、正しい答えがある問いを伝達するのではなく、学習者と共に対話しながら、学習者が主体的に答えを見つけ出していくプロセスに関わります。

ECEQ[®] コーディネーターが実施園に関わるときに十分注意したいことが、この立ち位置にあります。すなわち、実施園の保育内容や保育方針等に対して、ECEQ[®] コーディネーター自身の考えや知識を、自ら進んで「実施園がより良くなるために教えてあげよう」とする言動は慎まなければならない、ということです。ECEQ[®] コーディネーターは、教授者ではなくファシリテーターであると常に意識することが大切なのです。

図表 2-3：教育者のかたち



※『教育者のかたち』津村俊充著、プロセス・エデュケーション、金子書房（2019）中の「教育者を養成するための2つの視点」より引用作図

2-6 ^{イーセック}メイン ECEQ[®] コーディネーターと ^{イーセック}サブ ECEQ[®] コーディネーター

^{イーセック}ECEQ[®] コーディネーターはチームで活動する

ECEQ[®] 実施に際して、ECEQ[®] コーディネーターは必ず全 STEP を複数人でチームを組み支援を行います。複数の ECEQ[®] コーディネーターの多様な視点により、「実施園中心」「とにもある」「非評価」「非操作」のふるまいの構えを相互に作っていくためです。その際、責任者となるメイン ECEQ[®] コーディネーターと責任者をサポートするサブ ECEQ[®] コーディネーターを決め、ECEQ[®] コーディネーターがチームを組んで役割分担し連携を取りながら支援を進めていきます。ECEQ[®] コーディネーター同士の相互作用が、ECEQ[®] の質をさらに高めていく仕組みです。

(1) メイン ECEQ[®] コーディネーターの役割

メイン ECEQ[®] コーディネーターは、責任者として ECEQ[®] 全体をコーディネートし、全 STEP においてリーダーとしてふるまいます。いわば、実施園のために ECEQ[®] を企画運営できる知識とスキルを持ち合わせた ECEQ[®] のエキスパートです。そのため、メイン ECEQ[®] コーディネーターを務めるには、サブ ECEQ[®] コーディネーターを経験しておいたり、ECEQ[®] への深い理解をもったりしておくことが大事です。

メイン ECEQ[®] コーディネーターは、STEP 1 でインタビュアーとなり、STEP 2と STEP 5で園内研修を企画実施するファシリテーターとしての役割を担います。STEP 4では、公開保育の全体進行役となりますが、時に分科会のファシリテーターを兼務することもあります。STEP 5を終え、「ECEQ[®] コーディネーター報告書」を作成するのも、メイン ECEQ[®] コーディネーターの大事な仕事となります。

メイン ECEQ[®] コーディネーターとしての役割一覧

- ・責任者（リーダー）として全体をコーディネート
- ・全体を通して 都道府県私立幼稚園団体、関係機関等との連絡支援
- ・STEP1 ECEQ[®] 概要説明、トップリーダーからの聴き取り
- ・STEP2 園内研修企画実施、研修ファシリテーター
- ・STEP3 「問い」づくり支援、公開保育準備支援、関係機関との連携支援

- ・ STEP4 全体進行支援、(分科会ファシリテーター)
- ・ STEP5 園内研修企画実施、研修ファシリテーター
- ・ (STEP6) 実施園記録作成支援、ECEQ[®] コーディネーター報告書作成

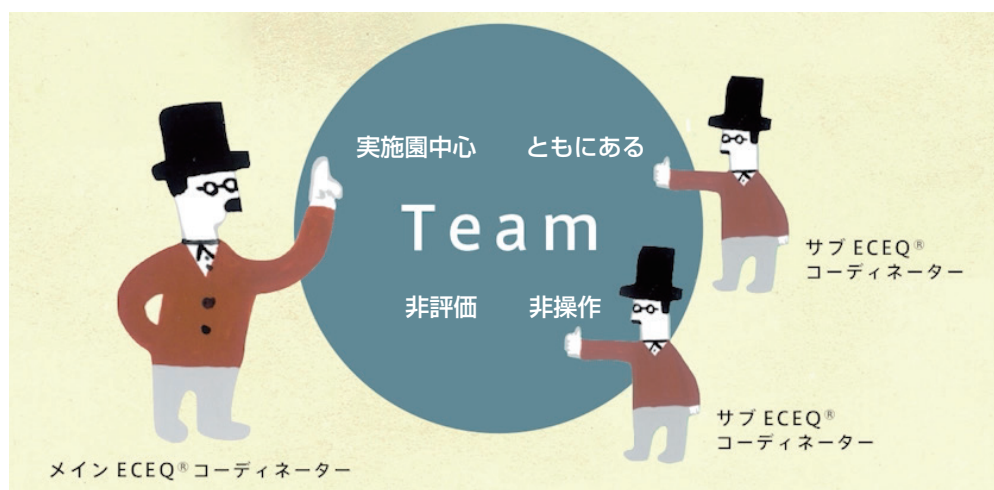
(2) サブ ECEQ[®] コーディネーターの役割

サブ ECEQ[®] コーディネーターは、各 STEP においてメイン ECEQ[®] コーディネーターと連携して ECEQ[®] の運営をサポートします。サブ ECEQ[®] コーディネーターの経験を積んでいくことを通して、ECEQ[®] コーディネーターのスキルアップが得られます。

STEP 2や STEP 5では研修ファシリテーターとして、STEP 4では分科会ファシリテーターとしての役割が求められます。全 STEP において報告書作成のための記録を取ったり、各 STEP でのメイン ECEQ[®] コーディネーターのふるまいに率直なフィードバックを行ったりすることも大切です。「ECEQ[®] コーディネーター報告書」も必ず読んで、確認します。

サブ ECEQ[®] コーディネーターとしての役割一覧

- ・ 全体を通してメイン ECEQ[®] コーディネーターをサポート 全 STEP に関する記録
- ・ STEP1 トップリーダーからの聴き取り
- ・ STEP2 研修ファシリテーター
- ・ STEP3 「問い」づくり支援、公開保育準備支援、関係機関との連携支援
- ・ STEP4 分科会ファシリテーター
- ・ STEP5 研修ファシリテーター
- ・ (STEP6) ECEQ[®] コーディネーター報告書確認



▲ ECEQ[®] コーディネーターはチームワークが大事

ステップ 5STEP の ECEQ[®] コーディネーターの役割

ECEQ[®] コーディネーターは、下図の「5STEP の ECEQ[®] コーディネーターの役割」を把握しておく必要があります。

図表 2-4：5STEP の ECEQ[®] コーディネーターの役割

STEP	内容	メイン ECEQ [®] コーディネーター	サブ ECEQ [®] コーディネーター
全体	・全体を通して	・都道府県私立 幼稚園団体、関係 機関等との連絡支援	・ECEQ [®] コーディ ネーター報告書作成 のための記録
STEP1 事前訪問	・ECEQ [®] の概要説明 ・トップリーダーから の聴き取り	・概要説明 ・進行 ・聴き取り	・聴き取り ・記録
STEP2 事前研修	・ECEQ [®] の概要説明 ・現在位置を知る ワーク	・概要説明 ・園内研修の企画実施 ・園内研修のファシリ テーション	・園内研修のファシリ テーション ・記録
STEP3 STEP4 準備と 「問い」づくり	・問いづくり ・案内づくり ・資料づくり	・「問い」の基本構造 の説明 ・「問い」づくり支援 ・公開保育準備支援	・「問い」づくり支援 ・記録 ・公開保育準備支援
STEP4 公開保育	・オリエンテーション ・保育の公開 ・分科会 ・全体会	・全体コーディネート ・(分科会ファシリ テーション)	・分科会ファシリ テーション ・記録
STEP5 事後研修	・STEP4の 振り返りワーク	・園内研修の企画実施 ・園内研修のファシリ テーション	・園内研修の ファシリテーション ・記録

各 STEP の準備としての 0.5 STEP

ECEQ[®] コーディネーターは、5STEP 全てを円滑に行えるように実施園を支援することが役目です。しかし、各 STEP を有意義な「研修」にするためには、そのための「準備」が大切になってきます。つまり、ECEQ[®] コーディネーターにとっては、各 STEP の前に「0.5 STEP」にあたる「事前打ち合わせの機会」をつくることが欠くことのできない STEP となるのです。この「0.5 STEP」では、必要に応じて ECEQ[®] コーディネーター同士や実施園を交えて、各 STEP の目的を確認したり実施方法を検討したりします。このテキストでは、各 STEP の節に、次の STEP までに確認や検討しておきたい事項を記載しています。実施園が「やってよかった」と思える各 STEP となるように、十分な準備をして各 STEP に臨みましょう。

まとめ

「やってよかった ECEQ® !」 ～ ECEQ® コーディネーターの役割～

☐ ECEQ® コーディネーターとは？

全日本私立幼稚園幼児教育研究機構の研修を受けて資格を持った、
幼児教育の理論と実践を理解し、ファシリテーションのスキルを持った専門家

☐ ECEQ® コーディネーターの使命は？

実施園の保育者等が同僚との関係性に支えられる中で、主体的に幼児教育の
質向上を目指す園風土の醸成に寄与すること

☐ ECEQ® コーディネーターのふるまい・構えのポイントは？

「実施園中心」「ともにある」「非評価」「非操作」

☐ ECEQ® コーディネーターが「チームで活動する」とは？

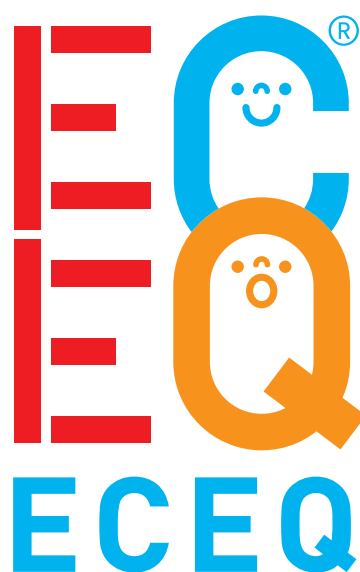
ECEQ® コーディネーターは、複数でチームを組み、互いに連携しながら、
ECEQ® 全体のコーディネートと各 STEP の企画進行を行う

ECEQ® コーディネーター テキストブック&マニュアル

ECEQ® Coordinator TextBook & Manual

第3章 ECEQ® の実施

3-1	ECEQ® 申請前相談	30
3-2	ECEQ® 申請受付	31
3-3	STEP1 事前訪問	34
3-4	STEP2 事前研修とは	41
3-5	STEP3 「問い」 づくりと 公開保育の準備	52
3-6	STEP4 公開保育の準備	61
3-7	STEP4 公開保育	67
3-8	STEP5 事後研修とは	77



Early Childhood
Education
Quality System.

全日本私立幼稚園幼児教育研究機構

第3章 ECEQ®の実施

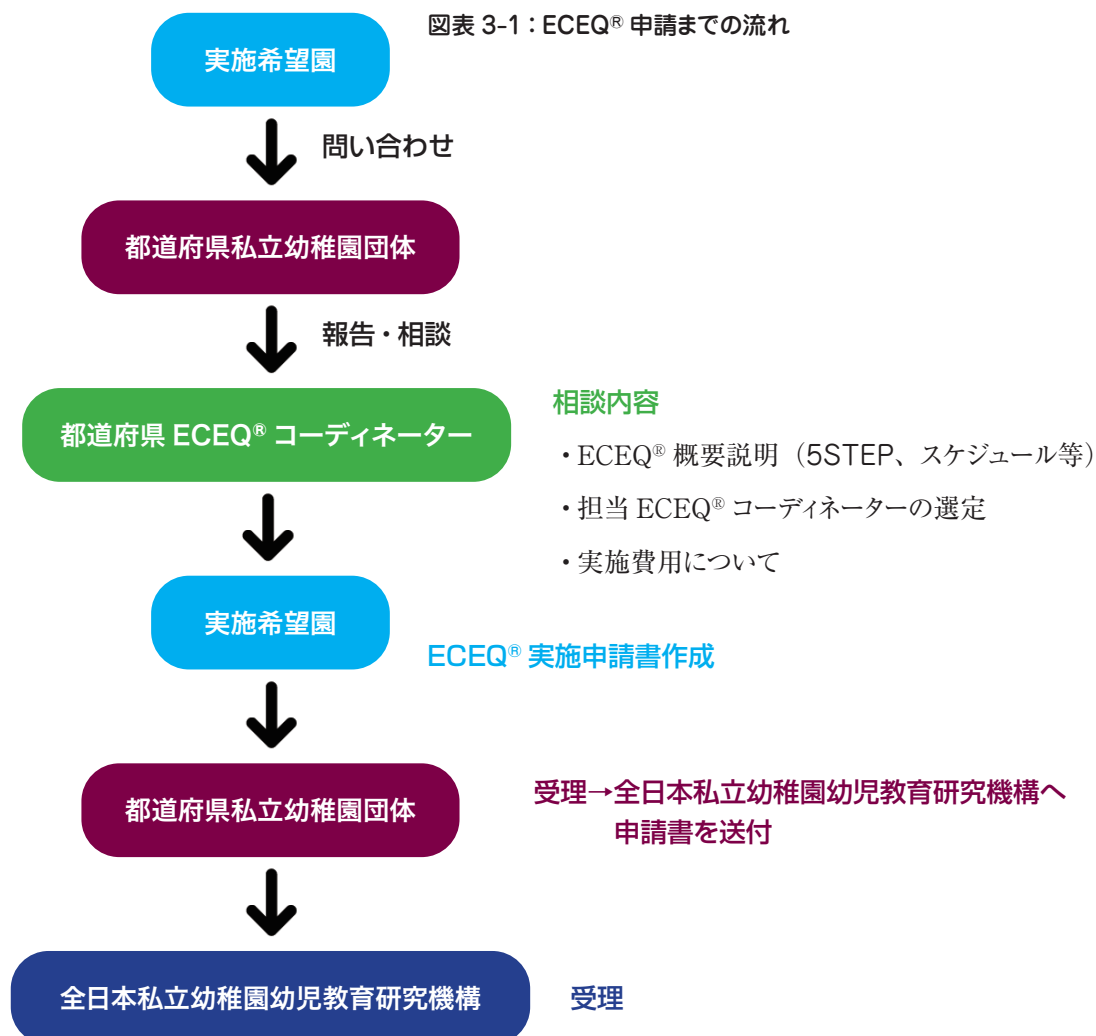
3-1 イーセック ECEQ® 申請前相談

イーセック ECEQ® の旅へ出かける前の STEP

ECEQ® は5STEPで行いますが、実施園側から見ると、STEP1の前に「実施するかどうかを相談する段階」があります。このセクションでは、相談に来られた実施希望園に対して、ECEQ® コーディネーターとしてどのような点に留意して答えると良いかを学びます。

ECEQ® は都道府県私立幼稚園団体が窓口になりますが、団体事務局では実施希望園からの疑問や不安に的確に答えるのは難しいため、ECEQ® コーディネーターが相談に応じます。ECEQ® コーディネーターは、実施希望園の疑問に答えたり、不安を受け止めたりすることで、ECEQ® の円滑な実施につなげます。

図表 3-1：ECEQ® 申請までの流れ



3-2 イーセック ECEQ® 申請受付

イーセック ECEQ® 実施申請から受付

実施希望園からの事前相談を経て ECEQ® の実施が決定すると、実施希望園が ECEQ® 実施申請書に必要事項を記入し、所属する都道府県私立幼稚園団体へ提出します。

申請書の主な記載内容は実施園の基本情報、STEP4 公開保育の実施日とメイン ECEQ® コーディネーターおよびサブ ECEQ® コーディネーター名です。ECEQ® コーディネーターは、実施園所属都道府県から指名することが基本ですが、人数が不足していたり、特別な事情によって実施園が他都道府県の ECEQ® コーディネーターを希望する場合があります。ECEQ® コーディネーター選びは、実施園にとって重要なポイントです。実施申請書は都道府県私立幼稚園団体が、全日本私立幼稚園幼児教育研究機構に送付し、ECEQ® の実施が確定します。

図表 3-2：ECEQ® 実施申請書

令和 年 月 日	
(一財) 全日本私立幼稚園幼児教育研究機構 理事長 安家 周一 様	
住 所	
園 名	
代表者名	
令和 年度 ECEQ®実施申請書	
ECEQ® (公開保育を活用した幼児教育の質向上システム) について 別紙のとおり実施を希望するので申請いたします。	

基礎情報内容		ECEQ 実施園情報	
法人名			
理事長名			
園名			
園長名			
担当者名	役職名	氏名	
住所	〒		
電話番号			
FAX 番号			
メールアドレス			
園児数	人		
学級数と人数	年長組	学級 名	年中組
	満3歳組	学級 名	年少組
		学級 名	学級 名
		名	名
保育者数	人		
職員数	人		
ECEQ 公開保育 実施予定日	年 月 日		

ECEQ メイン コーディネーター名	
ECEQ サブ コーディネーター名	


※保育者数・職員数は実員数を明記ください。
<送付先>

STEP0.5

トップリーダーカルテ

ECEQ®の実施が確定すると、早速STEP1に向けて動き出します。メインECEQ®コーディネーターはサブECEQ®コーディネーターとチームとなって活動するため、チームの連絡手段を決めたり5STEPの日程の調整をします。チームが結成できたら実施園に連絡し、STEP1の日程を確定させます。日程が決まったらSTEP1の実施前に、「トップリーダーカルテ」を実施園のトップリーダーに依頼をします。実施園のことをより深く知り、的確なコーディネーションをするためのツールであるという目的を伝え、記載された情報はECEQ®以外では用いずECEQ®コーディネーターチームで厳重に取り扱う旨の念を押します。またトップリーダーは誰であるかも明確に聞いておくことも大切です。記載できたトップリーダーカルテは、STEP1の参加人数分印刷して用意いただくことも伝えておきます。

図表 3-3：トップリーダーカルテ

ECEQ® 実施園 トップリーダーカルテ				ECEQ® 実施園マニュアル	
園名					
氏名		役職名			
自園の良さ・好きなどころ・伸ばしたい点					
自園の課題・うまくいっていない点・改善したいところ					

※トップリーダーカルテは『ECEQ® コーディネーターマニュアル』参照

まとめ

ECEQ®の旅路に向けて

☐ 申請前相談とは？

ECEQ® 開始前の重要なステップ

実施希望園の不安や迷いを軽減し、ECEQ® への期待と希望を高めていけるように、必要最小限の ECEQ® 概要説明等を端的に伝える機会

☐ 必要最小限の概要とは？

- ・5STEP の流れ
- ・公開保育希望時期
- ・ECEQ® コーディネーターの選定
- ・実施費用

☐ 申請受付とは？

実施希望園が ECEQ® 実施申請書を作成し、
実施園が所属する都道府県私立幼稚園団体に提出

3-3 ^{ステップ}STEP 1 事前訪問

イーセック ECEQ®の旅のスタート

「STEP0.5」旅路の準備をしっかりと整えた後、「やってよかった ECEQ®」に向けた一歩を踏み出します。

STEP1 の目的は大きく分けると2つです。1つ目は、実施園のトップリーダーに ECEQ® の概要を説明すること。2つ目は、実施園を支援するために必要な情報を聴き取ることです。

STEP1 は実施園を支援するために、ECEQ® 全体を通して ECEQ® コーディネーターが常に意識しておくべき「トップリーダーのメッセージ」を理解するための重要な STEP です。

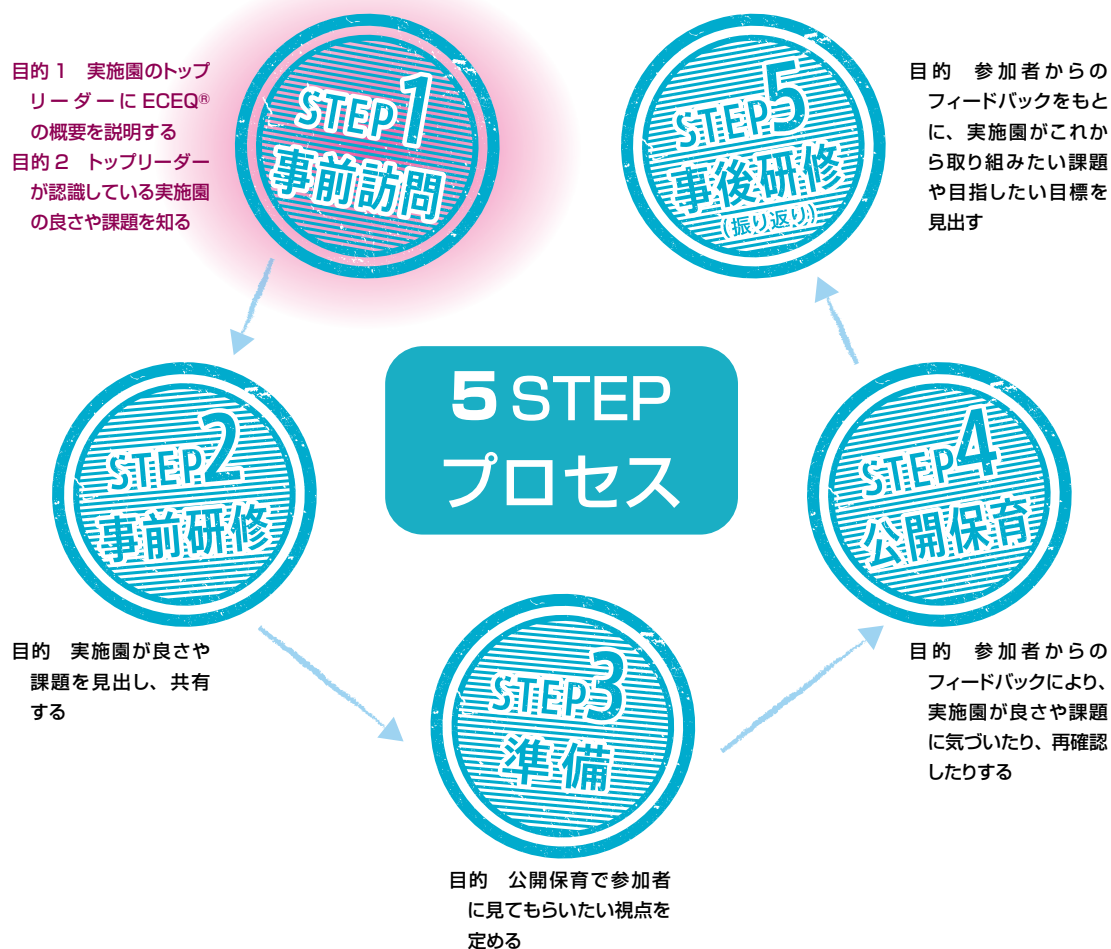
(1) STEP1 の目的・目標

目的

- ・トップリーダーに ECEQ® の概要を説明し、実施に際しての不安を軽減する
- ・トップリーダーが認識している自園の良さや課題を知る

目標

- ・トップリーダーと信頼関係の基礎を構築する
- ・トップリーダーの ECEQ® への期待や不安を知る
- ・保育者の関係性、トップリーダーのリーダーシップ等、実施園の風土を感じ取る
- ・保育目標、保育内容等、実際の保育方針を知る
- ・ECEQ® 実施に対しての期待と希望をトップリーダーに持ってもらう



(2) STEP1 の準備

ECEQ[®] コーディネーターは、STEP1 がスムーズに行えるよう、実施園との事前打ち合わせを密に行う姿勢をもつことが大事です。特に準備物については参加者の負担がないよう、実施園に既にあるものを聴きながら用意を依頼します。準備段階で気づいたことや情報は、ECEQ[®] コーディネーターチームで事前に共有しておき、ヒアリングのポイントを合意しておくことも大切です。STEP1 の進行や ECEQ[®] 概要説明はメイン ECEQ[®] コーディネーターの仕事です。ただし、サブ ECEQ[®] コーディネーターのレベルアップを図るために、トップリーダーへのインタビューについては、経験のあるメイン ECEQ[®] コーディネーターに記録役としてサポートしてもらいながら、サブ ECEQ[®] コーディネーターが行っても良いでしょう。インタビューとしての心持ちはファシリテーターそのものです。第2章を読み返して、準備を進めましょう。

ECEQ® コーディネーターが準備するもの

- ・ECEQ® コーディネーター認定証
- ・ECEQ® 概要説明に必要な資料（ECEQ® 紹介動画、ECEQ®PASSPORT 等）
- ・ICレコーダー等 ※使用する場合には、事前にトップリーダーの承諾を得る

実施園（トップリーダー）が準備するもの

- ・トップリーダーカルテ
- ・園の概要が分かる資料
（沿革、理念、園児数、職員数、クラス数、保育内容等が分かるもの）

図表 3-4：ECEQ® 実施申請書

令和 年 月 日

（一財）全日本私立幼稚園幼児教育研究機構
理事長 安家 周一 様

住 所
園 名
代表者名

令和 年度 ECEQ®実施申請書

ECEQ®（公開保育を活用した幼児教育の質向上システム）について
別紙のとおり実施を希望するので申請いたします。

（申請書別紙）

基礎情報内容	ECEQ 実施園情報
法人名	
理事長名	
園名	
園長名	
担当者名	役職名 氏名
住所	〒
電話番号	
FAX 番号	
メールアドレス	
園児数	人
学級数と人数	年長組 学級 名 / 年中組 学級 名 / 年少組 学級 名 満3歳組 学級 名 / 2歳児 名 / 1歳児 名 / 0歳児 名
保育者数	人
職員数	人
ECEQ 公開保育 実施予定日	年 月 日

ECEQ メイン コーディネーター名	
ECEQ サブ コーディネーター名	

※保育者数・職員数は実員数を明記ください。
<送付先>

STEP1 における ECEQ[®] コーディネーターの留意点

○ ありたい姿

- ・ファシリテーターとしての構えを理解して対話する
- ・ECEQ[®] 実施に対して敬意を表明する
- ・ECEQ[®] コーディネーター自身がリラックスして笑顔を絶やさず、場の雰囲気をつくる
- ・緊張する場合は、冒頭にアイスブレイクを入れる
- ・ECEQ[®] コーディネーターは評価者ではなく実施園の味方であると念を押す
- ・実施園の「お役に立ちたい」という気持ちを常に持ってふるまう
- ・現在の悩みや課題をおだやか、共感的に聴く（傾聴）
- ・トップリーダーとしてのこれまでの苦労を労う心持ちでふるまう
- ・「トップリーダーカルテ」に沿って、対話しながら（問いかけながら）聴き取る

× あってはならない姿

- ・説明や感想をだらだらと述べる
- ・「聴く」ことが「問いただす」ことになってしまっている
- ・悩みや課題に対して ECEQ[®] コーディネーターの自説で答える
（ファシリテーターではなく、教授者やコンサルタントになってしまっている）
- ・時間を守らない（延長する）

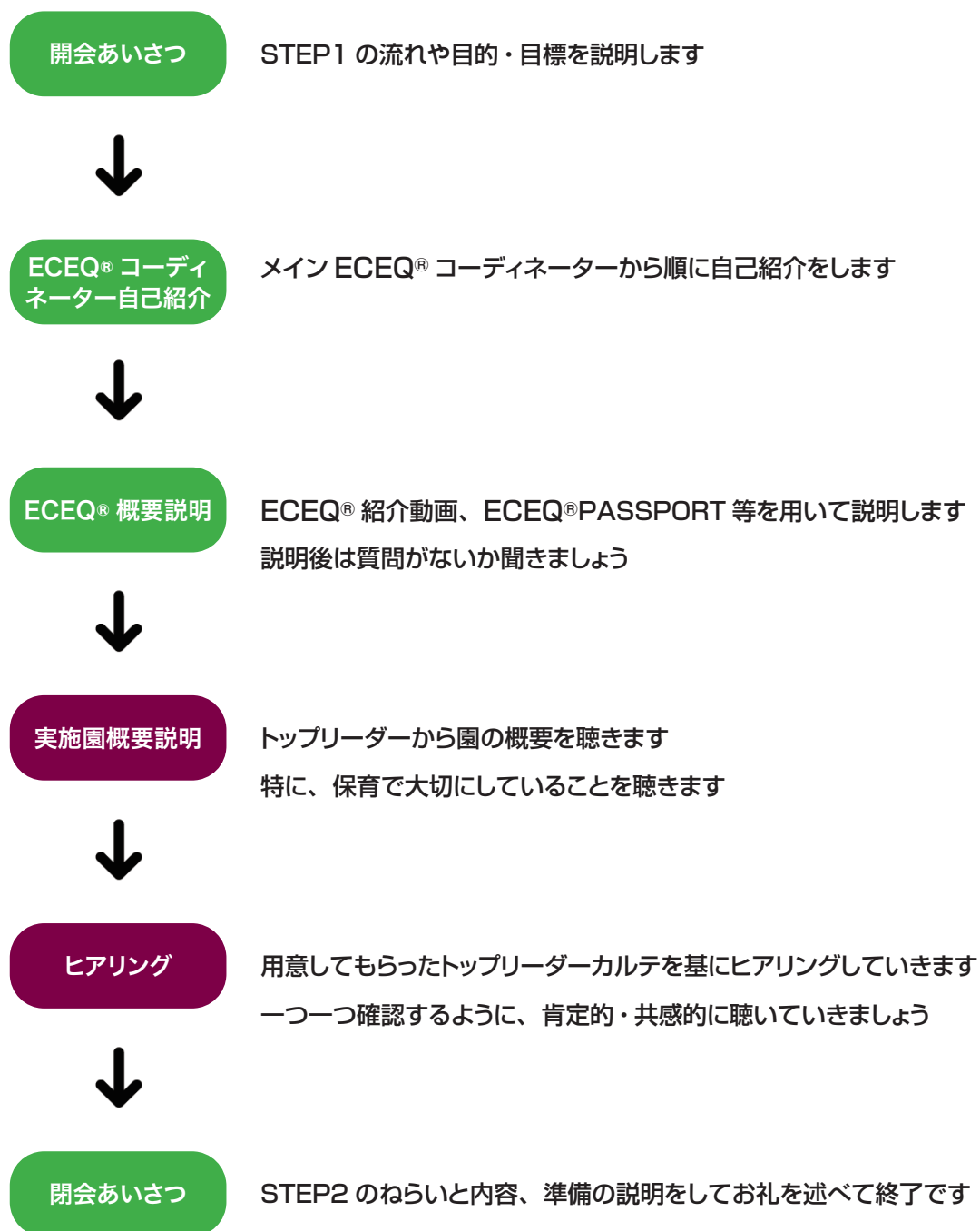


▲ STEP1 の和やかな風景

(3) STEP1 の実際

STEP1 の流れは下の図のようになります。

図表 3-5：STEP1 の流れ（標準 1 ～ 1.5 時間）



※ STEP1 の進行表は『ECEQ® コーディネーターマニュアル』参照

ECEQ[®] 概要 必須説明チェックリスト

トップリーダーの不安を軽減し、ECEQ[®] を正しく理解してもらうために、以下の点を必ず説明します。

- ・実施園がまんなか
- ・実施園が「やってよかった ECEQ[®]」と思えることが目標
- ・ECEQ[®] コーディネーターの役割
- ・5STEP プロセスと ECEQ[®] 実施認定証発行までの流れ
- ・STEP4 公開保育での「問い」の重要性と有効性
- ・実施費用
- ・学校関係者評価加算
- ・実施園記録の作成
- ・ECEQ[®] コーディネーター報告書

STEP1.5

ECEQ[®] コーディネーターは、STEP 1でトップリーダーから聞いた内容を、ECEQ[®] コーディネーターチームで整理し共有します。整理する観点は、トップリーダーカルテに沿った実施園の良さや課題、不安、疑問等です。特に、トップリーダーが保育者チームの現状をどう評価しているか、チームに望むありがたい姿等を整理することは、STEP 2以降、ECEQ[®] コーディネーターがどういった姿勢で保育者チームに関わるかを決める重要な指標となります。

トップリーダーから見たキーマンや課題があるチーム等の情報を事前に整理しておくことで、STEP 2の進行をよりの確に行うことに役立つことでしょう。整理する過程であいまいな点や推測の域を出ない点等については、あらためてトップリーダーに確認することもあります。

STEP 1の内容がしっかり聴き取れ整理されていることが、ECEQ[®] 全体に大きく影響を及ぼします。このことを念頭において、ECEQ[®] コーディネーターチームで十分に話し合うことが大切です。

まとめ

ECEQ®の旅のスタート

□ STEP1 とは？

ECEQ® コーディネーターチームが実施園を訪問

ECEQ® の概要説明とトップリーダーへのヒアリングを行う

トップリーダーと ECEQ® コーディネーターの信頼関係を構築する重要な STEP

□ STEP1 の目的は？

ECEQ® の概要を理解してもらう

トップリーダーの思いを聴き取る

実施園の風土を感じ取る

□ STEP1 で ECEQ® コーディネーターが心がけることは？

共感的・受容的に丁寧に接し、トップリーダーに本音を語ってもらえるように

ファシリテータータイプに対話をする

□ STEP1 のゴールは？

ECEQ® コーディネーターとトップリーダー層の信頼関係の構築

トップリーダーの保育者等への評価の聴き取り

3-4 ^{ステップ} STEP2 事前研修とは

実施園の保育者と イーセック ECEQ[®] コーディネーターの学びの場

STEP 2 は、実施園の現場の保育者等と ECEQ[®] コーディネーターが初めて出会う園内研修の場。「ECEQ[®] とは何か」について実施園に理解してもらい、自園の現在位置を共有するワークを実施します。

実施園の保育者等は、外部から突然やってきた ECEQ[®] コーディネーターに対して、「どんな人だろう?」「何をするんだろう?」という不安を抱えています。

そのため、まずは ECEQ[®] コーディネーター自身が自分は何者であるかを紹介した後、ECEQ[®] の概要を説明し、ECEQ[®] は何のために行うのか、今後の各 STEP で何をするのかについて理解してもらうことを目指します。

また、ワークでは、自園の良さや課題を見出し自園の現在位置を共有し、STEP 4 公開保育前のスタートラインを確認することも STEP 2 の目的です。ECEQ[®] コーディネーター側にも緊張感がありますが、発言しやすい和やかな雰囲気づくりにも配慮しながら、実りある話し合いができるようサポートします。

大切なことは、「教授者」ではなく「ファシリテーター」としての立ち位置を意識することです。「実施園の保育者と共に学ぶ場をつくる気持ちで臨むこと」を忘れないようにしましょう。

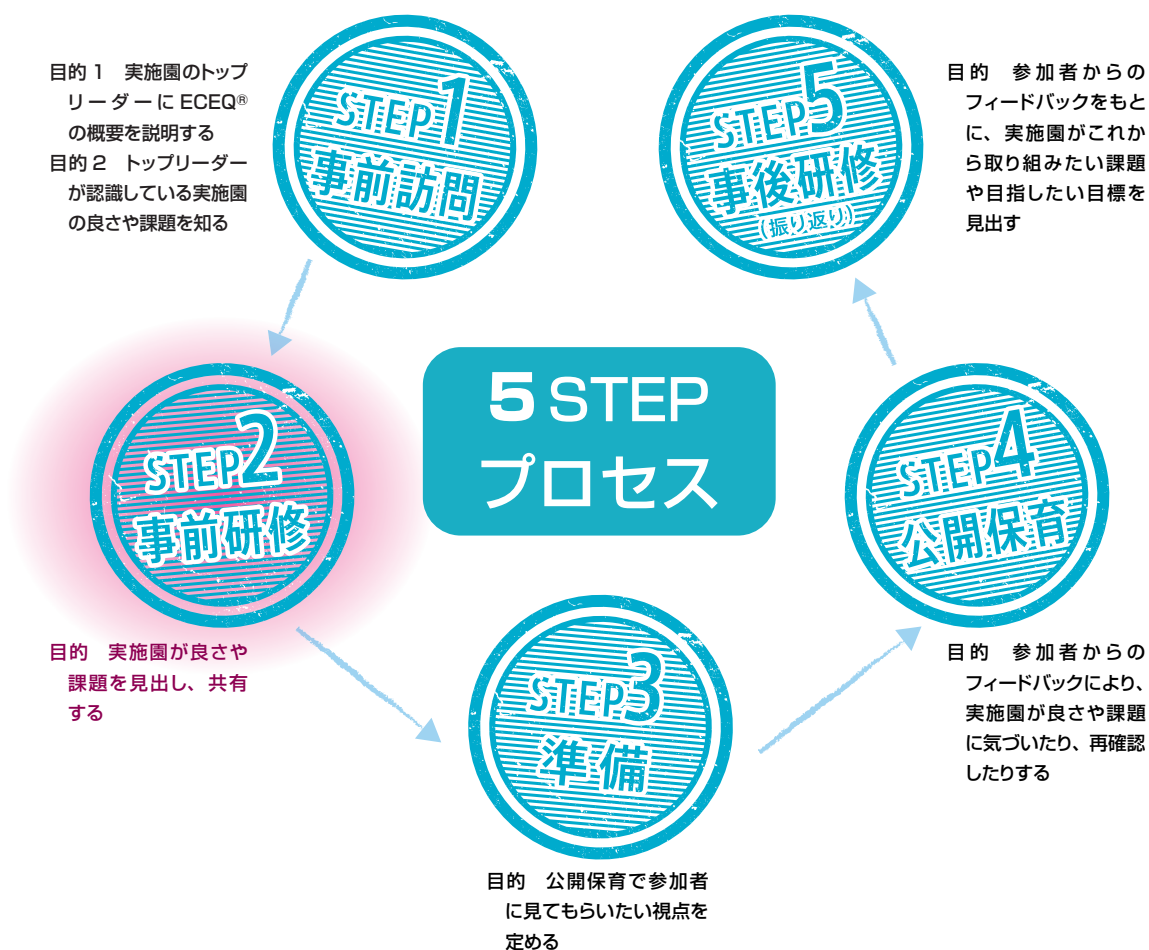
(1) STEP2 の目的・目標

目的

- ・実施園の保育者等が ECEQ[®] の概要を理解し、自園の良さや課題を見出し、共有する

目標

- ・ECEQ[®] コーディネーターが実施園の保育者等と信頼関係の基礎を構築する
- ・実施園の保育者等が話しやすい雰囲気をつくる
- ・実施園の保育者等が ECEQ[®] への期待感をもつ



ECEQ® の旅はスタートしたばかりです。これからの長い道のりを共に歩んでいく「仲間」として、実施園の保育者との信頼関係は欠かせません。その基盤づくりとなるのが STEP2 です。ECEQ® コーディネーターは、保育者が「この人となら一緒に旅に出かけられる」と思えるよう安心感を与え、信頼関係の基礎を築いていきます。

ワークでは、経験年数にかかわらず誰もが自分の思いや考えを出すことが大切です。ファシリテーターとしての技法はもちろんですが、保育者が心をほぐし、和やかな雰囲気のもとで STEP2 に参加できるような工夫が必要です。

また、「ECEQ® って何?」「私たちはどこに連れていかれるの?」という保育者等の当初の不安が、「ECEQ® っておもしろそう!」「ゴールに向かって進んでみよう!」という期待に変わることも、STEP2 の過程において達成したい目標です。ECEQ® コーディネーターは、保育者等に ECEQ® へのポジティブな気持ちをもってもらうことを念頭に置いて STEP2 を進めます。

(2) STEP2 の準備

STEP2 の大きな柱は、「ECEQ® の概要説明」と「現在位置共有ワーク」です。STEP1 でヒアリングしたトップリーダーの意向を再度確認して、メイン ECEQ® コーディネーターを中心に ECEQ® コーディネーターチームで企画します。「現在位置共有ワーク」は、基本型として推奨する「田の字法」ワークの他にもさまざまなバリエーションがありますが、まずは基本型をマスターしましょう。慣れてくれば実施園に合わせたワークを行っても良いでしょう。

ワークへの参加者を決める

事前にトップリーダーと「現在位置共有ワーク」の参加者を確認しておきます。ECEQ® は園全体の質向上を目指すものです。一緒に保育をつくっている副担任やクラス補助の保育者等にもできるだけ参加してもらうことが肝要です。参加者が決まったら、実施園に参加者名簿をもらい、実施園の意向をよく聴いてグループ分けをします。

ワークのために準備するもの

- ・ 模造紙
- ・ 水性顔料マーカー
- ・ 付箋
- ・ ホワイトボード



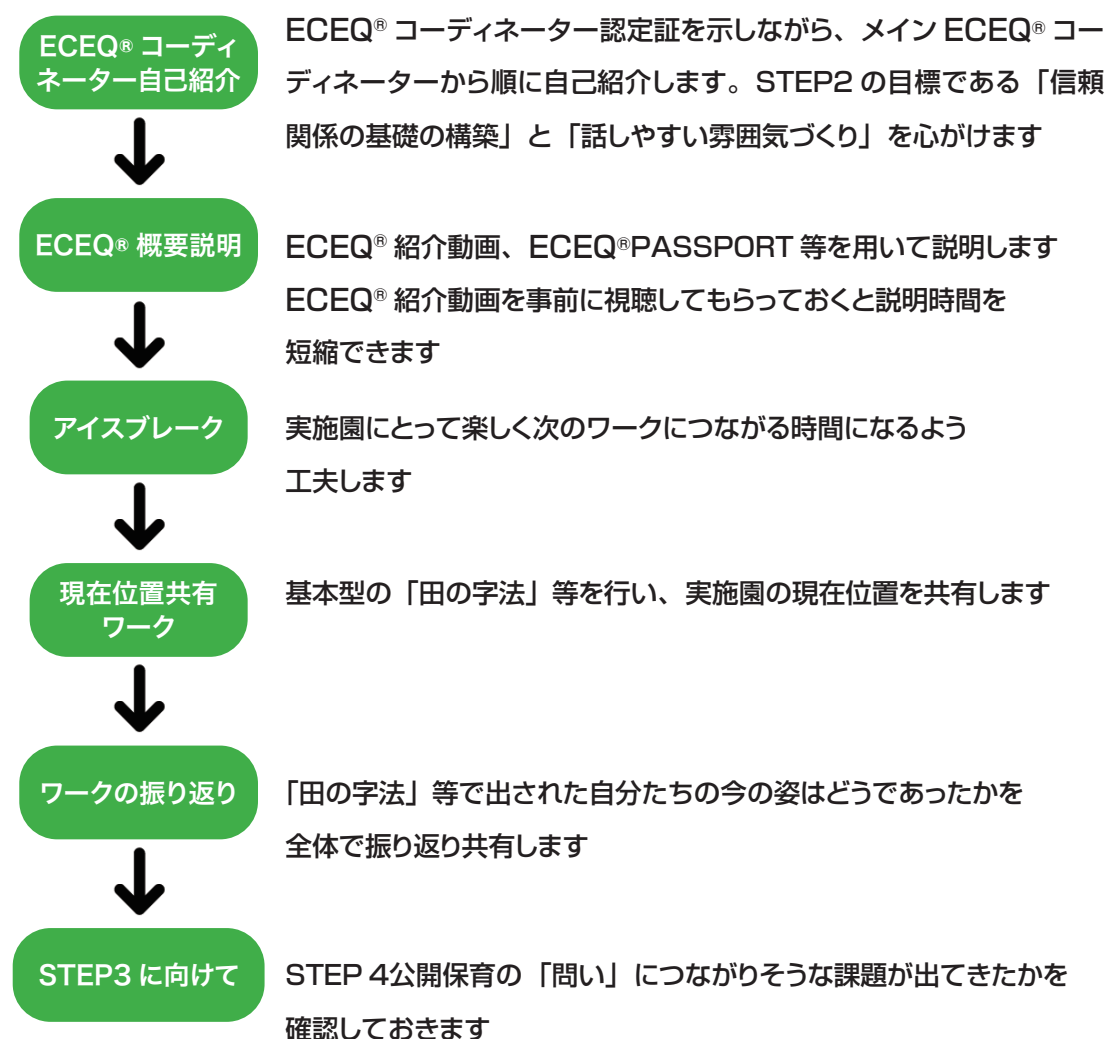
▲現在位置共有ワークに取り組む実施園の保育者

(3) STEP2 の実際

「ECEQ®の概要を理解してもらう」「自園の良さや課題を見出してもらう」ためのSTEP2全体の流れは、下図のようになります。実施に際しては、ECEQ®コーディネーターはどのような存在なのか、「自己紹介」や「概要説明」の際に繰り返し説明し、STEP2を通して保育者に理解してもらうことも大切です。「評価」や「指導」をする立場ではなく、ECEQ®の「ナビゲーター」であり、「共に学ぶ」関係性であることを丁寧に伝え、ワーク等を通して体現しましょう。これがECEQ®全体への理解を促すことにもなります。

実施園の良さや課題を見出す「現在位置共有ワーク」では、外部の人間であるECEQ®コーディネーターの前で自園の課題を見つけたり、マイナス要素を開示したりすることになります。これは勇気の要ることであり、保育者等のストレスになることも想定されます。ECEQ®コーディネーターが受容的な態度でかかわり、実施園の保育者等にとって「心許せる味方」であると感じられるようにすることが重要です。

図表 3-6：STEP2 の流れ（標準2～3時間）



(4) STEP2 各セクションで大事にしたいこと

ECEQ® コーディネーター自己紹介

第一印象が大事です。笑顔でハキハキ、おだやかに話すことを心がけます。ECEQ® コーディネーター全員が園名、氏名、ならびに ECEQ® コーディネーターとしての期待等を端的に話します。

「いまの気分」「好きな（苦手な）食べ物」「マイブーム」等、場を和ませる統一したテーマを加えたり、1人1分を計時して話したりすることも、今後のワークの進行の見本となります。特に、初めて ECEQ® コーディネーターとして参加する場合に注意したいのは、「今回は初めてです。わからないことばかりで皆さんにご迷惑をかけることになるかもしれませんが、たくさん学ばせていただきたいです」等と謙遜して言うことです。気持ちはわかりますが、これでは逆に実施園に不安を喚び起こすことになります。たとえば、「今回はデビュー戦です。少々若々しさに欠けるルーキーですが、皆さんの『やってよかった ECEQ®』のために精一杯がんばりますので、どうぞよろしくお願いいたします!」と素直に、爽やかに自己開示することが、信頼感を生むことにつながります。



▲ ECEQ® コーディネーターがリラックスして臨むことが大切

ECEQ® 概要説明

ECEQ® 概要説明のチェックポイント

ECEQ® 概要説明では、以下の点に留意します。

- ・ ECEQ® とは？

そもそも ECEQ® とは何か？（第1章 1-1～1-5参照）

- ・ 5STEP プロセス

5STEP の流れ（第1章 1-6 参照）

- ・ ECEQ® コーディネーターの役割

ECEQ® コーディネーターはどのような役割を果たすのか？（第2章 2-1～2-3参照）

- ・ やってよかった ECEQ® !

ECEQ® コーディネーターとしての思いや願い（第2章 2-2参照）

アイスブレイク

アイスブレイクとは、「氷のように固まっている心の状態を砕いて緊張をほぐす手法」です。研修の前に行うことで、和やかな雰囲気をつくり、リラックスして参加できる状態にします。誰もが気兼ねなく発言し、その発言を認め合う雰囲気をつくることで、特にワークの活性化が期待できます。アイスブレイクは心を解きほぐすことが目的ですので、すでに先生方の雰囲気が良い場合はあえて行わなくても良いでしょう。STEP1 におけるヒアリングの内容や、園内に入った時の雰囲気等を参考に判断しましょう。

アイスブレイク例

- ・好きな〇〇で自己紹介
- ・後出しじゃんけん
- ・〇〇と言えば
- ・1分を当てよう
- ・漢字発見ゲーム
- ・類人猿診断



▲アイスブレイクが場の雰囲気を和らげる

※アイスブレイクワークの詳細は『ECEQ[®] コーディネーターマニュアル』参照

現在位置共有 ワーク

STEP2 の肝ともいうべきワーク。ECEQ® コーディネーターは、ファシリテーターとしての心もちを大切に、特に以下の点に留意して進めていきます。

- ・それぞれの考えを肯定的に受けとめる雰囲気のもとで行います
- ・付箋を出す際に、その具体的な内容を口頭で説明することが大切です
- ・似た内容の付箋をまとめていくプロセスにおける対話も大切です。

意見の本質的な部分や他の意見との関連性等を探れるようにサポートします

- ・参加者のワークの経験値を聞いておきます。付箋を使うのも初めてに近い場合は、付箋の書き方等ワークの進め方そのものについてある程度の説明が必要です。



▲現在位置共有ワークの風景

ワーク例

STEP2 のワークの目的は、実施園の保育者等が自園の良さや課題を共有して現在位置を確認することです。ゴールに向かう道は様々ですが、効果的なワークの方法として、「田の字法」を紹介します。

田の字法

田の字法は、その名の通り「田」の字のように4つのエリア（象限）にフレームを分けて、4つの問いを当てはめ考えを可視化していく方法です。4つの問いの1番目は現在の自園をふりかえって、「好きなところ」「いいところ」「自慢できるところ」等のこれからも続けたいところ（第1象限）、2番目は「難しく思うところ」「悩むところ」「困っているところ」「変えたいところ」等の課題点（第2象限）、3番目は「第2象限の課題の原因」（第3象限）、4番目は「これからなりたい姿」「こうなったらいいな」等という理想や希望（第4象限）を挙げます。

所要時間は60～90分ほどです。

第1象限 「好きなところ」 「いいところ」 「自慢できるところ」	第4象限 「これからなりたい姿」 「こうなったらいいな」
第2象限 「難しく思うところ」 「悩むところ」「困っているところ」 「変えたいところ」	第3象限 「第2象限の課題の原因」

STEP2.5

実施園の保育者等が自園の良さや課題を共有して現在位置を確認することができれば、STEP2の目的は達成です。次の大事なSTEP3「問い」づくりに臨むために、この段階で一度ECEQ®全体のプロセスを見通しておきます。

STEP1でトップリーダーから聴いたこととSTEP2で出された現場の実感を比べてみて、トップリーダーのしている園の姿と現場の保育者等から見た園の姿は同じか、違うとしたらどこがどう違うのか、気づいたこと感じたことをECEQ®コーディネーターチームで確認しておきます。

「問い」づくりの準備

STEP2で共有された良さや課題から「問い」づくりをする場合、その「問い」を「参加者に見てもらえそう」な場面で想定し、公開保育時の保育を計画してもらいます。

他方で、良さや課題に関連する場面が公開保育であまり見られないことが想定される場合は、STEP2で整理したキーワードに縛られすぎず「問い」を考えても良いことを実施園に伝えます。

STEP4 公開保育分科会のグループ分けの確認

STEP2の結果を見て分科会グループを再確認します。

分科会ごとに違う「問い」が立てられることが一般的ですが、大規模園では同じ「問い」で複数の分科会を持つこともあります。配置できるファシリテーターの数も鑑みて、分科会をどう持つか実施園と相談して決めます。

まとめ

実施園保育者と ECEQ[®] コーディネーターがともに学ぶ場

☐ STEP2 とは？

STEP2 は、実施園の保育者と初めて出会う場
和やかな雰囲気づくりに配慮しながら、ECEQ[®] への期待感を高めてもらう

☐ STEP2 の目的は？

ECEQ[®] の概要を理解してもらい、実施園の良さや課題を見出して共有する

☐ STEP2 で ECEQ[®] コーディネーターが心がけることは？

話したくなるような場づくりが、ECEQ[®] コーディネーターの重要な支援の1つ
ワークでは、多様な意見を引き出す

☐ STEP2 のゴールは？

STEP3 以降への見通しと期待をもてるようにして終える